

2013（平成 25）年度

日本医学会年次報告

2014 年 2 月 19 日

日本医学会

目 次

1. 日本医学会総会	1
1) 「第29回日本医学会総会2015 関西」の準備	1
2. 日本医学会幹事会	3
3. 日本医学会臨時幹事会	3
4. 日本医学会定例評議員会	4
5. 日本医学会臨時評議員会	4
6. 日本医学会法人化組織委員会	4
7. 日本医学会シンポジウム	4
1) 日本医学会シンポジウム	4
2) 日本医学会シンポジウム企画委員会	5
3) 日本医学会シンポジウム記録 (DVD)	6
4) 日本医学会シンポジウムの要旨	6
8. 日本医学会公開フォーラム	6
1) 日本医学会公開フォーラム	6
2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会	7
3) 日本医学会公開フォーラム記録 (DVD)	7
9. 日本医学会医学用語管理委員会	8
10. 日本医学会分科会用語委員会	8
11. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	9
12. 日本医学会加盟検討委員会	11
13. 日本医学会あり方委員会	11
14. 日本医学会臨床部会運営委員会	12
15. 日本医学会臨床部会運営委員会「専門医に関する委員会」	12
16. 日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	12
17. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会	13
18. 日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」	14
19. 日本医学会臨床部会会議	14
20. 日本医学会基礎部会・社会部会合同会議	14
21. 日本医学会利益相反委員会	15
22. 日本医学会分科会利益相反会議	15
23. 日本医学雑誌編集者組織委員会	16
24. 2013 アジア太平洋医学雑誌編集者会議 (APAME) ・ 日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 合同会議 (APAME 2013 Tokyo)	17
25. 移植関係学会合同委員会	18
26. 日本医学会だより	18
27. 情報発信	18
28. 会議等の開催数	19
29. その他	20

綴じ込み

日本医学会だより No.49	21
日本医学会だより No.50	23
健康医療分野における研究助成のあり方について（緊急声明）	
－「日本版 NIH」構想と裾野の広い基礎研究の必要性－	25
日本医学会の法人化に関連して	27
Kyoto Heart Study に関する見解	28
バルサルタン論文不正問題に関する日本医学会の見解	30
わが国の不正な臨床研究報告に関する日本医学会の見解	31
日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	32

1. 日本医学会総会

1) 「第29回日本医学会総会2015関西」の準備

「医学と医療の革新を目指して－健康社会を共に生きるきずなの構築－」をメインテーマとした「第29回日本医学会総会2015関西」の準備としては、組織委員会のもと、各委員会を招集し、討議を重ね、2014年1月現在、概要は下記のとおりである。

1. 学術講演関係

- ・20の柱のプログラム詳細を検討し、シンポジウム／パネルディスカッション／教育講演シンポジウムあわせて75企画を策定した。また、産業医向けのセッションは、66企画を策定した。
- ・現在、開・閉会講演、特別講演／特別企画について検討している。
- ・プレイベント企画として、以下イベントを開催した。

①医療チーム 学生フォーラム

- | | |
|-----------|-----------------|
| 5月11日 | 第2回学生フォーラム |
| 6月29日 | 第1回医療の担い手プロジェクト |
| 8月23～25日 | 夏合宿 |
| 10月6日 | 新歓プロジェクト |
| 11月23～24日 | 関西 Cross Talk |
| 11月30日 | 第3回学生フォーラム |
| 12月23日 | 第2回医療の担い手プロジェクト |

②近畿医師会連合プレイベント

- | | |
|-------|------------------------|
| 12月1日 | 第45回和歌山県医師会医学会総会での特別講演 |
|-------|------------------------|

2. 展示関係

- ・登録者向けの学術展示については、学術講演と連携し補完する展示を基本方針として医学と医療活動の質を向上させる、最新医学と医療に関する機器などの製品やサービス、情報を集め展示する準備を進めている。
- ・一般市民向けの公開展示については、「未来医 XPO'15～あなたの暮らしと医

の博覧会～」をコンセプトとして神戸国際展示場，国際会議場を中心に実施案を検討中である。集客目標として一般市民，医学会総会参加者を合わせて25万人を考えている。展示会場をスマート，メディカル，サイエンス，ヘルスケアの4つのアイランドに分け，健康社会をつくる最新の医学と医療の成果，未来を紹介する予定である。また，医学・医療の最先端の紹介を通じて，特に未来を担う小学校高学年～中学・高校生に，医学・医療を中心とした科学への興味や夢を抱いてもらうため，ポートアイランドにある先端の科学施設を見学するポートアイランドサイエンスツアー等，各種イベントも計画している。

3. 広報関係

- ・総会の告知方法として，従来から実施しているポスター／チラシの制作・配布と併せて，下記，動画を中心としたweb展開を行っている。Facebookや総会ホームページ等に掲載し，今まで総会に参加したことのない若手医療従事者や医療関係者以外の方々への興味を喚起するとともに，登録促進に繋げる。

①対談／インタビュー動画

6月25日 井村 裕夫×高久 史磨×永井 良三 鼎談

『第29回日本医学会総会2015関西』開催にあたり

8月7日 井村 裕夫×森 洋一 対談

『第29回日本医学会総会2015関西』の目指すこと

その他，各委員会委員長へのインタビュー等を実施した。

②ISOUKAIx (いそうかい くろす)

若手医療者を対象とした教育講演プログラム。横断的な知識の共有を目的としており，各分科会の気鋭の先生方により各テーマでの教育講演プログラムをご講演いただき，15分程度に編集した内容を動画で配信する。下記2回を実施している。

9月3日 ISOUKAIx 糖尿病

11月20日 ISOUKAIx 医療情報

4. その他

- ・参加登録費の策定

- ・募金活動の実施
- ・宿泊ホテルの確保／ツアーの検討
- ・ソーシャルイベント種目の策定／実施会場の確保

5. 事務局

「第 29 回日本医学会総会 2015 関西」組織委員会事務局

〒 606-8507 京都府京都市左京区聖護院川原町 54

京都大学医学部附属病院 北病棟 7 階 呼吸器内科内

Tel/Fax:075-752-6025 E-mail:jimukyoku@isoukai2015.jp

URL:<http://www.isoukai2015.jp/>

事務局長：中村 泰三

2. 日本医学会幹事会

第 9 回日本医学会幹事会を、平成 26 年 2 月 19 日（水）に開催。主な議題は、「平成 25 年度日本医学会年次報告」、「平成 26 年度日本医学会事業計画」、「日本医学会の法人化について」等である。

3. 日本医学会臨時幹事会

平成 25 年 8 月 7 日、12 月 4 日に日本医学会臨時幹事会を開催し、日本医学会の法人化について協議した。内容は、8 月 7 日が、日医側から提示された事項について、12 月 4 日が、「一般社団法人日本医学会連合定款」「設立時社員及び設立時役員」「平成 26 年度会費」等についてである。

4. 日本医学会定例評議員会

第 81 回日本医学会定例評議員会を，平成 26 年 2 月 19 日（水）に開催。主な議題は，「平成 25 年度日本医学会年次報告」，「平成 26 年度日本医学会事業計画」，「日本医学会の法人化について」等である。

5. 日本医学会臨時評議員会

平成 25 年 12 月 4 日に臨時評議員会を開催した。主な議題は「日本医学会の法人化について」である。具体的には，「一般社団法人日本医学会連合定款」「設立時社員及び設立時役員」「平成 26 年度会費」等について協議を行った。

6. 日本医学会法人化組織委員会

日本医学会の法人化準備に向けて，平成 23 年度に新設された委員会（発足当時は日本医学会法人化準備委員会）で，平成 24 年度より名称を日本医学会法人化組織委員会に変更した。委員は富野康日己（委員長），里見 進（副委員長），池田康夫，北 潔，松木則夫，野田哲生，福永龍繁，小林廉毅，麦島秀雄，丸毛啓史，岩下光利，山田芳嗣の 12 名で構成されている。

本年度は，1 回開催した。第 5 回委員会は平成 25 年 5 月 17 日に開催，「日本医学会が法人格を持つことの必要性について」と「定款案」を協議した。

7. 日本医学会シンポジウム

1) 日本医学会シンポジウム

次のとおり2回開催した。

・第144回日本医学会シンポジウム

テーマ：臨床応用をめざしたiPS細胞研究

開催日：平成25年6月6日（木）

開催場所：日本医師会館大講堂

組織委員：小室 一成（東京大学大学院教授 循環器内科学）

中内 啓光（東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター長）

岡野 栄之（慶應義塾大学教授 生理学教室）

参加者数：292名

・第145回日本医学会シンポジウム

テーマ：乳がん

開催日：平成25年12月19日（木）

開催場所：日本医師会館大講堂

組織委員：池田 正（帝京大学医学部外科主任教授／附属病院副院長）

藤原 康弘（国立がん研究センター企画戦略局長）

平岡 真寛（京都大学大学院教授 放射線腫瘍学・画像応用治療学）

参加者数：210名

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

日本医学会シンポジウム企画委員会（委員：栗原裕基，坂元亨宇，小室一成，前原喜彦，武林 亨）は，日本医学会シンポジウムの基本方針，テーマおよび組織委員について，企画構成を行う。今年度は，次のとおり開催した。

・第19回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成25年5月15日）

第145回シンポジウムを下記のとおり決定した。

テーマ：乳がん

組織委員：池田 正（帝京大学医学部外科主任教授／附属病院副院長）

藤原 康弘（国立がん研究センター企画戦略局長）

平岡 真寛（京都大学大学院教授 放射線腫瘍学・画像応用治療学）

- ・第20回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成25年11月5日）

日本医学会特別シンポジウム（第29回日本医学会総会プレイベントとして
グランフロント大阪で平成26年7月10日開催予定）を下記のとおり決定した。
テ ー マ：健康社会をめざす医学・医療の新たな展開

3) 日本医学会シンポジウム記録（DVD）

「第144回日本医学会シンポジウム：臨床応用をめざしたiPS細胞研究」，「第
145回日本医学会シンポジウム：乳がん」の全容を，DVDに制作し，関係各方面
に謹呈した。

また，DVDの内容は，日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項
で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）。

4) 日本医学会シンポジウムの要旨

要旨は，日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。第144回シンポジウム「臨床応
用をめざしたiPS細胞研究」：第142巻第7号（平成25年10月号），第145回シ
ンポジウム「乳がん」：第142巻第12号（平成26年3月号予定）

8. 日本医学会公開フォーラム

1) 日本医学会公開フォーラム

次のとおり2回開催した。

- ・第15回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ：高齢者の疾患－生活の質の向上のために－

開 催 日：平成25年6月15日（土）

開 催 場 所：日本医師会館大講堂

組織委員長：大内 尉義（国家公務員共済組合連合会虎の門病院長）

参加者数：401名

・第16回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ：大腸がん－最新情報を知ろう－

開 催 日：平成25年10月19日（土）

開 催 場 所：日本医師会館大講堂

組織委員長：森 正樹（大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授）

参加者数：318名

2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会（委員：跡見 裕，池田康夫，五阿弥宏安，高杉敬久）は，日本医学会公開フォーラムの基本方針，テーマおよび組織委員について，企画構成を行う。今年度は，次のとおり2回開催した。

・第16回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成25年5月15日）

企画委員会で第16回日本医学会公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ ー マ：大腸がん－最新情報を知ろう－

組織委員長：森 正樹（大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授）

・第17回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成25年11月20日）

企画委員会で第17回日本医学会公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ ー マ：肺がん－最新のトピックス－

組織委員長：中川 健（がん研究会有明病院名誉院長）

3) 日本医学会公開フォーラム記録（DVD）

「第15回日本医学会公開フォーラム：高齢者の疾患－生活の質の向上のために－」，「第16回日本医学会公開フォーラム：大腸がん－最新情報を知ろう－」のフォーラムの全容を，DVDに制作し，関係各方面に謹呈した。

また，DVDの内容は，日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）。

9. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、委員長：脊山洋右（医学中央雑誌刊行会理事長／大学評価・学位授与機構客員教授）、副委員長：大江和彦（東京大学大学院教授）、小野木雄三（国際医療福祉大学三田病院教授）、河原和夫（東京医科歯科大学大学院教授）、坂井建雄（順天堂大学大学院教授）、清水英佑（中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター所長）、田中牧郎（国立国語研究所准教授）、辻 省次（東京大学大学院教授）、森内浩幸（長崎大学大学院教授）、山口 巖（茨城県総合健診協会会長）、山口俊晴（がん研究会有明病院副院長）の11名により構成されている。

本年度は2回開催した。第6回医学用語管理委員会（平成25年7月4日開催）の主な議題は、1. ICD-10の一部改訂に係る意見について、2. 日本医学会医学用語辞典英和と和英の統合と英和廃止について、3. 日本医学会医学用語辞典の公開について。

第7回医学用語管理委員会（平成25年12月16日開催）の主な議題は、1. 医学用語辞典の公開について、2. 分科会用語委員会についての確認等である。

第8回医学用語管理委員会は、平成26年3月17日に開催予定。

10. 日本医学会分科会用語委員会

平成25年度日本医学会分科会用語委員会を12月16日に開催した。主な議題は、1. WHO-ICD分類のアップデート作業と社会保障審議会統計分科会 疾病、傷害及び死因分類部会の検討状況について、2. Web版の新機能について、3. 日本内視鏡外科学会用語集の日本医学会医学用語辞典様式への変換について、4. 電子カルテ用標準病名マスターの現状、5. 分かりにくい医学用語を分かりやすく等である。

また、Web版については平成26年度から一般公開を予定している。

11. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は平成 25 年 9 月 4 日（水）に開催された。

委員構成は会長・副会長・幹事を中心に構成。これに特例委員として、山口 徹（虎の門病院病院長）、春日雅人（独立行政法人国立国際医療研究センター総長／理事長／糖尿病研究センター長）、中村耕三（国立障害者リハビリテーションセンター総長）、池田勝久（順天堂大学医学部主任教授）、高橋 浩（日本医科大学眼科教授）、近藤幸尋（日本医科大学大学院医学研究科教授）、の 6 氏が加わった。

結果は、次のとおり医学賞 3 名、医学研究奨励賞 15 名が選考され、11 月 1 日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌（第 142 巻第 10 号）に掲載した。

[平成 25 年度日本医師会医学賞]

- ・ 骨髄異形成症候群における RNA スプライシング因子の変異の発見
小川 誠司（京大・腫瘍生物学）
- ・ 地域および職場における心の健康の実態，関連要因解明および対策に関する研究
川上 憲人（東大・精神保健学）
- ・ インクレチン生理機能の解明と日本人糖尿病におけるその意義
清野 裕（関西電力病院）

[平成 25 年度日本医師会医学研究奨励賞]

- ・ マルチカラー細胞系譜追跡法による成体幹細胞の同定と解析
上野 博夫（関西医大・病理学）
- ・ 抗癌剤耐性を促進するがん特異的な免疫調節因子同定とその臨床的意義の検討
地主 将久（北大遺伝研・感染癌研究センター）
- ・ 蛍光生体イメージング技術を駆使した骨髄内免疫細胞分化の時空間的解明
石井 優（阪大・感染免疫医学）

- ・わが国におけるサルコペニアの定義およびその妥当性の検証
谷本 芳美 (大阪医大・衛生学・公衆衛生学)
- ・大規模二次的データを用いた臨床疫学, 医療経済・政策学研究
康永 秀生 (東大・臨床疫学・経済学)
- ・脳梗塞に対する再生医療－日本初の薬事法に基づく生物製剤化への試み－
本望 修 (札幌医大・神経再生医療学)
- ・サイクロフィリン A を基盤とする心血管病の成因解明と新しい診断・予防・治療法の開発
佐藤 公雄 (東北大・循環器内科学)
- ・抗ヘリコバクター・ピロリ CagA 抗体迅速検出キットの開発
塩田 星児 (大分大・環境・予防医学)
- ・糖尿病血管合併症の発症阻止に向けた新たな治療戦略の構築
荒木 信一 (滋賀医大・糖尿病・腎臓・神経内科学)
- ・デルマトン 4-O-硫酸基転移酵素-1 欠損に基づくエーラスダンロス症候群の病態解明と治療法の開発
古庄 知己 (信州大・遺伝子診療部)
- ・患者組織由来脂肪幹細胞の臨床応用を目指した開発研究
三吉 範克 (大阪府立成人病センター)
- ・COX 代謝からみた好酸球性副鼻腔炎の病態解明と新規治療法の開発
岡野 光博 (岡山大・耳鼻咽喉・頭頸部外科学)
- ・子宮体癌においてエピジェネティックな制御を受けている microRNA を用いた創薬研究
阪埜 浩司 (慶大・産婦人科学)
- ・前立腺肥大症に対する個別化治療と新規創薬開発に向けた基礎的研究
小島 祥敬 (福島医大・泌尿器科学)
- ・虚血性網膜症における血管再生療法の開発
植村 明嘉 (神戸大・血管生物学)

12. 日本医学会加盟検討委員会

日本医学会加盟検討委員会の委員は、委員長：久道 茂（日本医学会副会長／宮城県対がん協会会長）、委員：佐谷秀行（慶應義塾大学医学部教授）、宮園浩平（東京大学大学院医学系研究科長・医学部長）、山田信博（筑波大学医学医療系教授）、今中雄一（京都大学大学院医学研究科教授）、中路重之（弘前大学大学院医学研究科長・医学部長）、川崎誠治（順天堂大学医学部主任教授）、島田和幸（小山市民病院病院長）、高本眞一（三井記念病院院長）、岡本眞一郎（慶應義塾大学医学部教授）、天谷雅行（慶應義塾大学病院副病院長）、大久保一郎（筑波大学人間総合科学研究科教授）、福原俊一（京都大学大学院医学研究科教授／福島県立医科大学副学長）の13名である。

平成25年度第1回日本医学会加盟検討委員会は平成25年11月8日に開催した。今年度の加盟申請の22学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。ちなみにこの審査は、日本医学会加盟検討委員会報告（平成23年7月）に示された新たな審査基準に基づいて行われている。

13. 日本医学会あり方委員会

日本医学会あり方委員会は平成16年に発足した。委員長：金澤一郎（日本医学会幹事／国際医療福祉大学大学院院長）、委員：池田康夫（日本医学会幹事／早稲田大学理工学術院先進理工学部教授／日本専門医制評価・認定機構理事長）、岡井 崇（日本医学会幹事／愛育病院病院長）、實成文彦（日本医学会幹事／山陽学園大学・山陽学園短期大学学長）、富野康日己（順天堂大学医学部教授）、中村耕三（国立障害者リハビリテーションセンター総長）の6名である。なお、本年度は、開催しなかった。

14. 日本医学会臨床部会運営委員会

日本医学会臨床部会運営委員会の委員は、10学会の基本領域学会と2学会のSubspecialty学会から構成されている。基本領域学会委員：寺本民生，五十嵐隆，島田眞路，武田雅俊，國土典宏，持田讓治，落合和徳，石橋達朗，八木聰明，有賀 徹。Subspecialty学会委員：門脇 孝，永井厚志。

15. 日本医学会臨床部会運営委員会「専門医制に関する委員会」

日本医学会臨床部会運営委員会「専門医制に関する委員会」の委員は、池田康夫（日本医学会幹事／早稲田大学理工学術院先進理工学部生命医科学科教授），千田彰一（日本医学会幹事／香川大学医学部附属病院長・総合診療科教授），里見 進（日本医学会幹事／東北大学総長），寺本民生（日本医学会幹事／帝京大学臨床研究センター長），有賀 徹（昭和大学病院長），丸山 泉（医療法人社団豊泉会理事長），横田俊平（横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学教授），吉村泰典（慶應義塾大学医学部産婦人科学教授）の8名と，オブザーバーとして，高杉敬久（日本医師会常任理事）の9名から構成されている。なお，本年度は，開催しなかった。

16. 日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成23年度に発足した委員会で，昨今，個人のゲノム解析が容易となる一方，日本では法制面，行政面，倫理・教育面などの社会的基盤としての整備が不十分であることから，日本医学会として遺伝情報の取り扱い，検査の質保証，提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長：福嶋義光（信州大学医学部教授），委員：鎌谷直之（株式会社スタージェン情報解析研究所所長），高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授），中村清吾（昭和大学医学部乳腺外科教授／大学病院

ブレストセンター診療科長), 宮地勇人 (東海大学医学部基盤診療医学系臨床検査学教授), 横田俊平 (横浜市立大学小児科学教授), 小西郁生 (京都大学大学院婦人科学・産科学教授) の7名で構成されている。

第6回委員会は平成25年5月21日に開催した。主な議題は, 1. 「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会報告, 2. ISPDのPosition Statement (April 2013) について, 3. マスメディアの報道について (朝日新聞, 読売新聞), 4. 今後の方針について。

第7回委員会は平成25年11月14日に開催した。主な議題は, 1. NIPTについて, 2. 「無侵襲的出生前遺伝学的検査における精度保証の取り組み」について, 3. 遺伝子診断ビジネスについて, 4. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会報告についての意見。

なお, 出生前遺伝学的検査について, 5団体の共同声明および日本産科婦人科学会の指針を無視する形で営業活動を行う中国企業が出現し, 医療機関に働きかけを行っているという報道を受け, 平成25年12月23日に日本都市センターホテルにて記者会見を行った。

17. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会

日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会の部会として平成25年3月に発足し, 主に施設の認定, 登録を行っている。久具宏司 (委員長: 東京都立墨東病院産婦人科部長), 澤 倫太郎 (日本医科大学女性生殖発達病態学講師), 榊原秀也 (横浜市立大学産婦人科准教授), 川目 裕 (東北メディカル・バンク機構教授), 高田史男 (北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝学教授), 丸山英二 (神戸大学大学院法学研究科教授) の6名により構成されている。

18. 日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」

日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」を，平成 25 年に発足した。部会長：門田守人（がん研究会有明病院病院長），委員：池田康夫（日本専門医制評価・認定機構理事長），大江裕一郎（日本臨床腫瘍学会理事長），西山正彦（日本癌治療学会理事長），野田哲生（日本癌学会理事長），平岡真寛（日本がん治療認定医機構理事長）の 6 名で構成。

第 1 回作業部会は，平成 25 年 11 月 5 日に開催し，作業部会の検討事項の決定とフリートーキングが行われた。

第 2 回作業部会は，平成 25 年 12 月 9 日に開催し，前回の議論を踏まえて，西山委員から提出資料の説明があり，今後のがん領域の在り方について，欧米型，日本固有型等の例がそれぞれ示され，基盤的設計についての意見交換がなされた。

第 3 回作業部会は，平成 26 年 3 月 10 日に開催予定。

19. 日本医学会臨床部会会議

平成 25 年 8 月 28 日に日本医学会臨床部会会議を開催。「日本医学会法人化について」をテーマに，日医側からの法人化延長要請を協議した。その結果，「予定どおり平成 26 年 4 月に法人格を取得する。なお，新法人の名称等については執行部一任とする」ことを満場一致で決めた。

20. 日本医学会基礎部会・社会部会合同会議

日本医学会基礎部会・社会部会合同会議を平成 25 年 10 月 3 日に開催した。「日本医学会法人化について」を協議し，臨床部会同様，平成 26 年 4 月の法人化を目指し，それに付随する諸問題については執行部に任せることとなった。

21. 日本医学会利益相反委員会

平成 22 年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を，平成 24 年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。委員長：曾根三郎（徳島大学名誉教授／JA 高知病院院長），委員：河上 裕（慶應義塾大学大学院医学研究科先端医科学教授），高後 裕（旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学教授），土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授），平井昭光（レックスウェル法律特許事務所 所長），水谷修紀（東京医科歯科大学副学長／産学連携本部長），J.Patrick Barron（東京医科大学名誉教授）の 7 名で構成。

第 8 回委員会は，平成 25 年 5 月 24 日に開催した。主な議題は，①日本循環器学会から Kyoto Heart Study 問題の調査報告，②日本医学会利益相反委員会報告（平成 25 年 3 月），③医学関連 COI 問題協議会報告，④分科会への COI マネージメントアンケート調査，⑤「医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン」の一部改訂，⑥第 4 回日本医学会分科会利益相反会議等である。同日，高久史磨日本医学会長，曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長，永井良三日本循環器学会代表理事の三者が合同記者会見を行い，同委員会での検討結果を報告した。

第 9 回委員会は平成 26 年 2 月 28 日に開催予定であり，同日，日本医学会 COI マネージメント研修セミナーも全国医学部長病院長会議と共催で日本医師会館大講堂にて開催される。

22. 日本医学会分科会利益相反会議

第 4 回日本医学会分科会利益相反会議は，平成 25 年 11 月 15 日に開催した。詳細は，日本医学会ホームページに掲載したので，参照いただきたい。

総会に引き続き，シンポジウムは，曾根三郎（徳島大学名誉教授／JA 高知病院院長），河上 裕（慶應義塾大学大学院教授）の司会の下，下記のプログラムで開催された。

- ・日本医学会分科会にかかる COI マネージメントの現状／土岐祐一郎（大阪大学大学院教授）
- ・臨床研究をとりまく環境～健康・医療戦略と倫理性・質の確保～／高江慎一（厚生労働省医政局研究開発振興課課長補佐）
- ・日米欧製薬協の企業依頼臨床試験にかかる論文公表について／稲垣 治（日本製薬工業協会医薬品評価委員会委員長）
- ・産学連携の透明化とアカデミアへの期待／永山悦子（毎日新聞科学環境部副部長兼医療情報室次長）
- ・医系大学・研究機関・病院における利益相反（COI）マネージメントガイドラインについて／苛原 稔（全国医学部長病院長会議利益相反検討ワーキンググループ座長）

23. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成 20 年に発足した。委員構成は、委員長：北村 聖（東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター教授）、委員：木内貴弘（東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授）、北川正路（東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐）、津谷喜一郎（東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学特任教授）、根岸正光（国立情報学研究所名誉教授）、三沢一成（特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会専務理事）、湯浅保仁（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）、吉岡俊正（東京女子医科大学理事長）の 8 名である。

第 12 回日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成 25 年 5 月 22 日に開催した。①「医学雑誌編集のガイドライン」作成スケジュール、③アジア太平洋医学雑誌編集者会議（APAME）・日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）合同会議（2013 年 8 月開催）、「日本医学会分科会機関誌一覧」等について意見交換を行った。

第 13 回日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成 25 年 11 月 28 日に開催した。①

APAME 2013 Tokyo (2013年8月開催), ②東京宣言の公開, ③「医学雑誌編集のガイドライン」作成スケジュール等について意見交換を行った。

第14回日本医学雑誌編集者組織委員会は, 平成26年3月3日に開催予定。

24. 2013 アジア太平洋医学雑誌編集者会議 (APAME) ・日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 合同会議 (APAME 2013 Tokyo)

2013 アジア太平洋医学雑誌編集者会議 (APAME) ・日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 合同会議 (APAME 2013 Tokyo) は, 平成25年8月2日～4日に日本医師会館を会場として開催し, 日本を含め22か国から250名の参加があった。

8月2日のプログラムはWHO西太平洋地域医学情報データベース (WPRIM) ・APAMEの合同総会であり, 各国の代表者により活動報告と今後の取り組みに関して意見交換がなされた。本合同総会には, WHO南東アジア地域版医学情報データベース (IMSEAR) 関連各国からの出席もあった。

8月3日～4日は, 北村 聖 (日本医学雑誌編集者組織委員会委員長／東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター教授) の司会によるJAMJE総会に引き続き, APAME・JAMJEジョイント・セッションが開かれた。APAME・JAMJEジョイント・セッションは, 高久史磨日本医学会長の開会挨拶, 脊山洋右日本医学会医学用語管理委員会委員長による挨拶の後, 基調講演, 7テーマのセッション, ポスター展示, 研究・出版に関する倫理, 医学出版の改善, 編集ガイドラインの作成, 査読の在り方, 各国の医学雑誌編集者会議の役割についてプレゼンテーション, 質疑があった。

なお, 8月3日には, 「アジア太平洋地域の科学および医学分野における研究の健全性と倫理的な論文執筆・出版に関する東京宣言」が採択された。本宣言の日本語訳は日本医学会のホームページに掲載される予定である。

25. 移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した移植関係学会合同委員会は厚労省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。

第31回委員会は審査の迅速化を図るため、持ち回り開催とし、移植施設の新規認定、取り下げ等を決定した。

26. 日本医学会だより

平成元（1989）年度より発行している日本医学会だより（JAMS News）は、本年度、5月にNo.49を、10月にNo.50を発行した（綴じ込みの「日本医学会だより」を参照）。

27. 情報発信

平成12年10月に日本医学会のホームページを開設した。日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページ（URL:<http://jams.med.or.jp/>）と分科会ホームページをリンクしている。

平成25年5月24日、「バルサルタンの医師主導臨床研究について（会見資料）」を本会ホームページに掲載（<http://jams.med.or.jp/news/031.pdf>）。

平成25年6月10日、「日本版NIH」構想に対する日本医学会の要望」を本会ホームページに掲載（綴じ込み参照）。

平成25年6月25日、「日本医学会の法人化に関連して」を本会ホームページに掲載（綴じ込み参照）。

平成25年7月12日、「Kyoto Heart Studyに関する見解」を本会ホームページに掲載（綴じ込み参照）。

平成 25 年 8 月 29 日、「バルサルタン論文不正問題に関する日本医学会の見解」を
本会ホームページに掲載（綴じ込み参照）。

平成 25 年 11 月 6 日、「わが国の不正な臨床研究報告に関する日本医学会の見解」
を本会ホームページに掲載（綴じ込み参照）。

平成 25 年 12 月 23 日、「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査」に関する最近
の報道について」を本会ホームページに掲載（綴じ込み参照）。

28. 会議等の開催数

日本医学会協議会（会長，副会長）	11 回
日本医学会幹事会	1 回
日本医学会臨時幹事会	2 回
日本医学会役員会・幹事会打ち合わせ会	1 回
日本医師会・日本医学会役員打ち合わせ会	2 回
日本医学会評議員会	1 回
日本医学会臨時評議員会	1 回
日本医学会法人化組織委員会	1 回
日本医学会シンポジウム	2 回
日本医学会シンポジウム打ち合わせ会	2 回
日本医学会公開フォーラム	2 回
日本医学会公開フォーラム打ち合わせ会	2 回
日本医学会シンポジウム企画委員会	2 回
日本医学会シンポジウム組織委員会	0 回
日本医学会公開フォーラム企画委員会	2 回
日本医学会公開フォーラム組織委員会	0 回
日本医学会医学用語管理委員会	3 回
日本医学会分科会用語委員会	1 回

医学用語打ち合わせ会	1回
日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	1回
日本医学会加盟検討委員会	1回
日本医学会あり方委員会	0回
日本医学会臨床部会運営委員会	0回
日本医学会臨床部会運営委員会「専門医制に関する委員会」	0回
日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	2回
「母体血を用いた出生前遺伝子検査」の施設認定・登録部会	7回
日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」	3回
日本医学会臨床部会会議	1回
日本医学会基礎部会・社会部会合同会議	1回
日本医学会利益相反委員会	2回
日本医学会分科会利益相反会議	1回
日本医学会 COI マネージメント研修セミナー	1回
日本医学雑誌編集者組織委員会	3回
2013 アジア太平洋医学雑誌編集者会議 (APAME) ・	
日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 合同会議	
(APAME 2013 Tokyo)	1回
移植関係学会合同委員会	1回
記者会見	2回

29. その他

- 1) 「日本医学会分科会一覧」を平成 25 年 8 月に作成，関係各方面に配付した。
- 2) 「平成 26 年日本医学会分科会総会一覧」を平成 25 年 12 月に関係各方面に配付した。
- 3) 「日本医師会年次報告書－平成 25 年度－」および「日本医師会会務報告」に，日本医学会関係の記事を掲載する予定。

日本医学会だより

JAMS News

2013年5月 No. 49
日本医学会

◆第80回日本医学会定例評議員会

平成25年2月20日に開催された。平成24年度年次報告、平成25年度事業計画の報告の他、第29回日本医学会総会準備状況の説明があった。平成24年度新規加盟学会は、日本放射線腫瘍学会、日本臨床スポーツ医学会、日本熱傷学会、日本小児循環器学会、日本睡眠学会、日本磁気共鳴医学会の6学会が承認され、118学会となった。また、日本医学会法人化について協議され、分科会の負担金についての提案が了承された。

◆第29回日本医学会総会 2015 関西

第29回日本医学会総会は、平成27年4月11日～13日、井村裕夫会頭の下、「健康社会のためのきずなの構築—医学と医療制度の未来を拓く」をテーマに、関西地区で開催することが決定しており、公開展示やイベントについて説明があった。

◆日本医学会加盟検討委員会

平成24年度第1回日本医学会加盟検討委員会は、平成24年11月28日に開催された。加盟申請の28学会についての審査を慎重に行い、その結果を平成25年1月16日の日本医学会協議会で高久会長に報告した。

◆日本医学雑誌編集者会議

2013アジア太平洋医学雑誌編集者会議 (APAME)・日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 合同会議を、医学情報発信における医学雑誌編

集者の役割を考え、かつ最新情報を広く深く交換できる集まりになることを目的として、平成25年8月2日(金)～4日(日)に、日本医師会館大講堂他にて開催する。

8月2日にWPRIM/APAME General Assembly, 8月3日に、APAME/JAMJE Joint Session, 8月4日に、APAME/JAMJE Joint Sessionをそれぞれ予定している。

◆日本医学会臨床部会運営委員会

臨床部会運営委員会は、日本医学会分科会の10の基本領域学会と2つの subspecialty 学会から構成されている。昨今、個人のゲノム解析が容易となる一方で、法制、行政、倫理、教育面などの社会的基盤としての整備が不十分であることから、遺伝情報の取り扱い、検査の質保障、提供体制などに取り組むことを目的に運営委員会の組織として平成23年度に「遺伝子・健康・社会」検討委員会が設置された。本年3月からはその下部組織として「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会が発足した。

◆日本医学会利益相反委員会

日本医学会利益相反委員会は、平成25年1月31日開催の第7回委員会において、「日本医学会分科会におけるCOIマネジメントの現況とその課題」並びに「日本製薬工業協会の会員会社へのアンケート調査結果について」の2つの委員会報告案について協議し、3月に日本医学会ホームページにて両報告を公開した。

内容は、過去3年間の日本医学会分科会宛アンケート調査結果の解析と、平成24年10月に実施した日本製薬工業協会会員会社宛アンケート調査結果の解析である。

◆日本医学会医学用語管理委員会

平成24年12月4日に平成24年度日本医学会分科会用語委員会を開催した。主な議題は「日本医学会医学用語辞典と日本形成外科学会用語集との統合について」「用語の採択法について」「日本小児科学会での取り組みについて」「日本医学会用語辞典アップデート」「解剖学用語が目指してきたもの」「日本医学雑誌編集者会議とその課題について」。

◆第15回日本医学会公開フォーラム

「高齢者の疾患—生活の質の向上のために—」をテーマに、平成25年6月15日(土)13:00～16:00、日本医師会館大講堂において開催する(組織委員長:大内尉義・国家公務員共済組合連合会虎の門病院長)。市民を対象とした公開フォーラムであり、参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

1. はじめに—高齢者の健康を守るために/大内尉義(国家公務員共済組合連合会虎の門病院長)、2. 高齢者の肺炎の予防と治療/海老原 覚(東北大学大学院医学系研究科講師・内部障害学)、3. 骨粗鬆症の予防と治療/細井孝之(独立行政法人国立長寿医療研究センター臨床研究推進部長)、4. 認知症の最新情報～早期診断から予防まで～/浦上克哉(鳥取大学医学部保健学科教授・生体制御学)、5. 高齢者における生活習慣病/横手幸太郎(千葉大学大学院医学研究院教授・細胞治療内科学)

◆第144回日本医学会シンポジウム

「臨床応用をめざしたiPS細胞研究」をテーマに、6月6日(木)13:00～17:00に日本医師会館大講堂において開催予定。組織委員は、小室一成、中内啓光、岡野栄之の各氏。参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。申し込み・詳細は日本医学会ホームページご参照。

◆医学賞・医学研究奨励賞

平成25年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞(旧医学研究助成費)の推薦依頼を『日本医師会雑誌5月号』に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。受付期間は、5月15日～7月5日。推薦書は、公示日より日本医師会ホームページ(<http://www.med.or.jp/>)からダウンロードできる。

◆日本医学会への加盟申請

平成25年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日に公示(『日本医師会雑誌』等)し、7月31日に締め切る。申請書は、公示日から本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)からダウンロードできる。

◆母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査について

標記については平成24年8月末の報道を契機に、国民の間から大きな関心が寄せられており、社会問題化していることから、3月9日、都市センターホテルにて日本医師会、日本医学会、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本人類遺伝学会と共に合同記者会見を開催し、共同声明を出した。会見では当面の間、臨床研究として行われること、施設の認定・登録は新しく日本医学会に発足した「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会で行うこと等が発表された。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

日本医学会だより

JAMS News

2013年10月 No.50
日本医学会

◆第16回日本医学会公開フォーラム

「大腸がん—最新情報を知ろう—」をテーマに、10月19日(土)13:00~16:00, 日本医師会館大講堂において開催した。組織委員長は、森 正樹大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授。

◆第145回日本医学会シンポジウム

「乳がん」をテーマに、12月19日(木)13:00~17:00, 日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、池田 正, 藤原康弘, 平岡真寛の各氏。参加申込みは郵便はがき, FAX, 本会 HP(<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。詳細は HP に掲載。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月4日に開催し、平成25年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞21, 奨励賞36を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

・骨髄異形成症候群におけるRNAスプライシング因子の変異の発見/小川誠司(京大・腫瘍生物学)

- ・地域および職場における心の健康の実態, 関連要因解明および対策に関する研究/川上憲人(東大・精神保健学)
- ・インクレチン生理機能の解明と日本人糖尿病におけるその意義/清野 裕(関西電力病院)
〈日本医師会医学研究奨励賞〉
- ・マルチカラー細胞系譜追跡法による成体幹細胞の同定と解析/上野博夫(関西医大・病理学)
- ・抗癌剤耐性を促進するがん特異的な免疫調節因子同定とその臨床的意義の検討/地主将久(北大遺伝研・感染癌研究センター)
- ・蛍光生体イメージング技術を駆使した骨髄内免疫細胞分化の時空間的解明/石井 優(阪大・感染免疫医学)
- ・わが国におけるサルコペニアの定義およびその妥当性の検証/谷本芳美(大阪医大・衛生学・公衆衛生学)
- ・大規模二次的データを用いた臨床疫学, 医療経済・政策学研究/康永秀生(東大・臨床疫学・経済学)
- ・脳梗塞に対する再生医療—日本初の薬事法に基づく生物製剤化への試み—/本望 修(札幌医大・神経再生医療学)
- ・サイクロフィリンAを基盤とする心血管病の成因解明と新しい診断・予防・治療法の開発/佐藤公雄(東北大・循環器内科学)
- ・抗ヘリコバクター・ピロリ CagA 抗体迅速検出キットの開発/塩田星児(大分大・環境・予防医学)
- ・糖尿病血管合併症の発症阻止に向けた新たな

治療戦略の構築/荒木信一（滋賀医大・糖尿病・腎臓・神経内科学）

- ・デルマトン 4-O-硫酸基転移酵素-1 欠損に基づくエーラスダンロス症候群の病態解明と治療法の開発/古庄知己（信州大・遺伝子診療部）
- ・患者組織由来脂肪幹細胞の臨床応用を目指した開発研究/三吉範克（大阪府立成人病センター）
- ・COX 代謝からみた好酸球性副鼻腔炎の病態解明と新規治療法の開発/岡野光博（岡山大・耳鼻咽喉・頭頸部外科学）
- ・子宮体癌においてエピジェネティックな制御を受けている microRNA を用いた創薬研究/阪埜浩司（慶大・産婦人科学）
- ・前立腺肥大症に対する個別化治療と新規創薬開発に向けた基礎的研究/小島祥敬（福島医大・泌尿器科学）
- ・虚血性網膜症における血管再生療法の開発/植村明嘉（神戸大・血管生物学）

◻日本医学会法人化組織委員会

第 5 回日本医学会法人化組織委員会が、5 月 17 日に開催され、「日本医学会が法人格を持つことの必要性について」および「一般社団法人日本医学会定款案」を検討し、次回の日医第 3 回定款・諸規程検討委員会に提出することを決定。さらに、法人格取得の日程（平成 26 年 4 月予定）に合わせて、本年 12 月に臨時評議員会の開催を予定した。

◻日本医学会臨床部会会議

第 3 回日本医学会臨床部会会議を 8 月 28 日に開催。かねてより平成 26 年 4 月に予定していた日本医学会法人格取得につき、横倉日医会長から延期の申し出があり、会議当日、「予定どおり進めるか」または「日医会長の要望に応じて 1 年間延期するか」について議論した。その結果、「予定どおり平成 26 年 4 月に法人格を取得し、法人の名称等については執行部一任とす

る」こととなった。

◻日本医学会基礎部会・社会部会 合同会議

標記合同会議を 10 月 3 日に開催し、日本医学会の法人化に関して検討を行った。合同会議としての結論は、先に開催された臨床部会会議同様、日本医学会の法人化は来年 4 月を目指し、付随した諸問題については執行部に一任となった。

◻日本医学会分科会利益相反会議

「違反事例から見た COI マネージメントのあり方」をシンポジウムテーマとした第 4 回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11 月 15 日（金）13:00~16:20、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は、本会ホームページにて受付中。

当日は総会に引き続き、「日本医学会分科会にかかる COI マネージメントの現状」「臨床研究をとりまく環境～健康・医療戦略と倫理性・質の確保～」「日米欧製薬協の企業依頼臨床試験にかかる論文公表について」「産学連携の透明化とアカデミアへの期待」「医系大学・研究機関・病院における利益相反（COI）マネージメントガイドラインについて」の講演が行われる予定。

◻日本専門医機構組織委員会

本年 4 月に厚労省から「専門医の在り方に関する検討会報告書」が出されたことを受け、日本医師会、日本医学会、全国医学部長病院長会議、四病院団体協議会、日本専門医制評価・認定機構の 5 団体で構成される「日本専門医機構（仮称）」組織委員会を立ち上げることを決定し、8 月 6 日に、第 1 回を開催した。委員長は金澤一郎氏（国際医療福祉大大学院長）。定款策定、役員選考、総合診療専門医育成、広報、財務等 5 つの委員会の設置が決まった。今後、定款、役員、組織などの骨格を決定する予定。

平成 25 年 6 月 10 日

健康医療分野における研究助成のあり方について（緊急声明）

－ 「日本版 NIH」構想と裾野の広い基礎研究の必要性－

日本生化学会	会長	石川 冬木
日本分子生物学会	理事長	大隅 典子
日本免疫学会	理事長	斉藤 隆
日本癌学会	理事長	野田 哲生
日本神経科学学会	会長	宮下 保司
日本細胞生物学会	会長	目加田英輔
日本ウイルス学会	理事長	柳 雄介

現在、政府においては、産業競争力会議を中心に「日本版 NIH」構想ならびに関連した法整備が議論されている。

日本版 NIH は、これまで、複数の省庁によって支援されていた医療分野の研究開発関連予算を一元化し、戦略的・重点的な予算配分を行うものであり、国として戦略的に行うべき実用化のための研究を基礎段階から一貫通貫で管理し、実務レベルの中核機能を果たす独立行政法人を設置するとされている。これは健康長寿の出口に向けた我が国の医療の進歩を期するものであり、国民の健康・医療の飛躍的な向上にとって重要な役割を果たすと期待される。しかしながら、そのような一元化した研究開発体制の創設に関して、我々ライフサイエンス関連 7 学会は、以下のように考える。

1. 少子高齢化社会の到来を迎えて健康長寿は国民の念願であり、国内の基礎的研究成果をより効率的に産業界へブリッジすることを目的とした日本版 NIH の創設は、今後の日本における優れた医療技術等の創出に大きく貢献すると期待される。我々ライフサイエンス領域研究者は、この日本版 NIH が有効に機能することにより、我々の研究成果が日本社会の福祉向上に大きく寄与することを期待するものである。その

ためにも、その創設に当たっては、学界・産業界を始めとする関係各分野の知恵を集めて、そのグランドデザインを作り上げることが重要である。予算規模では、モデルとする米国 NIH の約十分の一となると予想される日本版 NIH を、どのようにして国際競争力を有するものとするかに関する議論が必要である。

2. 多くの優れた科学技術は、知的好奇心にはじまる研究成果から生まれたものであり、長期的に次々と産業化にむすびつくイノベーションを生み出すためには、異分野融合研究をふくめた裾野が広い基礎研究体制を維持することが必須である。日本版 NIH 構想で言われている「実用化のための研究の基礎段階」の前段階においても、このような間口の広い基礎研究が不可欠である。我々は、実用化を指向した一貫性・計画性のあるトップダウン型科学技術推進戦略のみが一人歩きすると、我が国の科学の発展は危機的状況を迎えかねないと危惧するものである。トップダウン型戦略とともに、アカデミアの自由な発想を鼓舞するボトムアップ型研究支援をより一層拡充させ、両者が密接に相互作用しながら研究を展開することが日本の未来に不可欠である。このような研究支援を削減して、応用研究を含む科学の発展は成立し得ないと考える。

以上の我々の見解を、我が国のライフサイエンス研究プラットフォームの構築にあたって、十分に検討いただけるよう関係各位に要請するものである。

平成 25 年 6 月 25 日

日本医学会の法人化に関連して

日本医学会長 高久 史磨
副会長 清水 孝雄
久道 茂
門田 守人

最近、メールなどで日本医学会が法人化した際に日本医師会に代わる全国的な医師の組織となるという様な事が言われていますが、後日、ご相談申し上げる予定の日本医学会の定款（案）では、その様な意図がないことが示されており、日本医学会としては上述の様な考えは全くない事をご了承いただく様にお願いします。

平成 25 年 7 月 12 日

Kyoto Heart Study に関する見解

日本医学会 会長 高久 史磨
利益相反委員会委員長 曾根 三郎

バルサルタン臨床試験結果の報告論文の撤回に端を発して論文内容に関する疑惑が社会的に拡がり、医薬品開発には必須となる産学連携への危機感の高まりと共に日本で実施される臨床試験の結果の信頼性が国内だけでなく、国際的にも大きく揺らいでいる。日本医学会利益相反委員会は 5 月 24 日開催の委員会で日本循環器学会から Kyoto Heart Study (KHS) 報告論文の調査結果についてヒアリングを行った。その結果、臨床試験を実施した大学側に十分な調査を要望し、指摘された疑惑の真相解明とともに説明責任を求めてきた。

7 月 11 日、京都府立医科大学は KHS 調査結果を報告し、同大学内で登録されカルテ調査をし得た 223 症例について、(1) バルサルタンに効果が出るように解析用データセット、特に複合イベント発生数、一部血圧値についてデータ操作がなされていたこと、(2) カルテ調査結果を用いた解析からバルサルタン論文の結論が誤っている可能性が高いこと、(3) 販売元の製薬会社ノバルティスファーマ (N 社) の元社員がデータ解析などを行っていたが、KHS に深くかかわった元社員が大学からの聞き取り調査に応じなかったことを明らかにした。今回の報告は、恣意的なデータ操作が行われたのではないかという疑惑をさらに深めるもので、我が国の臨床研究の信頼性を揺るがす重大な事態といえる。日本医学会は、この事態を深く憂慮せざるを得ない。

今回のバルサルタンの件は、(1) 企業依頼と考えられる医師主導の比較臨床試験、(2) 3,000 名の被験者を対象とする大規模試験であり、その結果は臨床現場の治療薬選択に大きなインパクトを持つこと、(3) 人為的なデータ操作により、バルサルタンの降圧効果に加えて脳卒中や狭心症などの心血管イベントの発生率を下げると結論づけがなされ、販売促進に大きく利用された。本件は、倫理面だけでなく社会的にも N 社の責任

は極めて重いと言わざるを得ない。再発防止策を講じるためにも、N社の元社員が関わった複数のバルサルタン臨床試験について該当する大学はカルテ調査を行い、真相解明に向けて真摯に取り組むよう強く要望する。同時に、N社は当該大学の調査活動に積極的に協力し、実態の解明と再発防止に努められるよう要望する。

今回のKHSにかかる報告書は産学連携にかかる金銭関係、医師主導の臨床試験の実施（原資、データ管理と統計解析、論文作成と発表など）における企業とのかかわり方、倫理審査や利益相反状態の審査などについての問題点を数多く浮き彫りにしている。再発防止には、全国医学部長病院長会議、日本医学会、日本製薬工業協会、医療用医薬品製造販売業公正取引協議会などの組織、団体などが連携協力し、倫理性、科学性を担保とした医師主導の臨床試験実施のためのルール作り、論文発表の指針、金銭関係の透明化、利益相反状態のマネジメントなどを確保する仕組み作りが必要であり、適正に産学連携が推進できるように取り組んで行くことが喫緊の課題と考えている。

平成 25 年 8 月 29 日

バルサルタン論文不正問題に関する日本医学会の見解

日本医学会長 高久 史磨

バルサルタン論文不正問題に関しては、京都府立医大、慈恵医科大から調査結果の報告書が提出されており、論文作成の過程で何らかの不正な操作が行われた事が明らかにされている。ただ、バルサルタンの臨床研究が開始されてから 10 年以上経過しており、関係者の中にはすでに退職した方もおられるため、その詳細は不明である。しかし、今回の一連のバルサルタン論文不正問題はわが国の臨床研究の国際的な信頼性を著しく低下させた事は間違いのない事実である。その意味で、現在わが国の臨床研究は危機的な状況にあるといえよう。

本件に関してノバルティス社の社員の関与が利益相反と関連して問題となっているが、各分科会を統括する立場にある日本医学会は、問題となった論文の主任研究者の責任が最も重いと考えている。それと共に共同研究者として論文に名を連ねている研究者にもそれなりの責任があると考えている。

我々日本医学会に属するものは、再びこの様な論文の不正事件をおこさない様にという決意を新たにすべきである。

平成 25 年 11 月 6 日

わが国の不正な臨床研究報告に関する日本医学会の見解

日本医学会長 高久 史麿

副会長 清水 孝雄

久道 茂

門田 守人

最近、高血圧薬に関するわが国の臨床研究論文が世界的な臨床（医学）雑誌から相次ぎ撤回され、わが国の臨床研究に対する不信が世界的に広がっている。このような状況を見ると、わが国の臨床研究は危機的な状況にあるといっても過言ではない。

日本医学会はこの問題を深刻にとらえ、日本医学会に所属する 118 の分科会に対して以下の勧告をしたい。

- 1) 撤回された臨床研究の責任者は所属する学会の役員から辞任する事。
- 2) 該当する責任者が所属する各学会は、当該会員としての資格を停止する事。

2013年12月23日

関係 各位

日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会
委員長 福嶋 義光

「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査」に関する最近の報道について

この度、新型出生前遺伝学的検査（NIPT）について、日本産科婦人科学会の指針*およびこれを支持する関連5団体の共同声明**を無視する形で、営業活動を行っている検査会社が出現し、医療機関に働きかけを行っているとのメディア報道がなされました。日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会としては、この事案は大変遺憾であり、かつ由々しき事態と捉えており、緊急に、以下の表明を行うものです。

記

1. 国内でNIPTを受託・実施する検査会社には、わが国の現状を十分理解の上、5団体共同声明**の趣旨を尊重し、上記指針*を遵守した事業活動を行われたい。

*日本産科婦人科学会「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査に関する指針」
http://www.jsog.or.jp/news/pdf/guidelineForNIPT_20130309.pdf

**日本医師会，日本医学会，日本産科婦人科学会，日本産婦人科医会，日本人類遺伝学会「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査についての共同声明」
http://jams.med.or.jp/rinshobukai_ghs/statement.pdf

以上